

〈内裏雛と桃〉

〈菱餅尽くし編〉

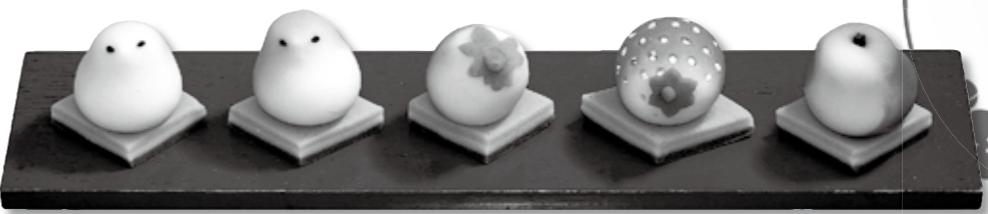
〈番外編(1)〉

〈番外編(2)〉

「おさらい雛祭り」でも触れたが、男雛が向かって左、女雛が右というは関東式。この一对だけでも食べるものがもつたないくらいカワイイ。内裏雛と並ぶ桃巨大に見えるがそれはご愛嬌。その桃には、舞い飛ぶ蝶があしらってあり、なかなかお洒落！



左から、黄色と白色のボカシでひよこの男雛、その隣が紅白のボカシでひよこの女雛を成形したものの。続いて茄子、苺、ラフランス。菱餅に見立てた焼切にのせるだけで、雛菓子として愛らしく見えるのがすごい。菱餅に託した願い、伝統の意匠の強みである。



左から、バナナとサル：バナナを頭にのせたサルは、バナナが好きなサル、バナナを踏んで転ぶサルからイメージしたもの。雪洞をのせたフグ、波に乗るエビ：これが星ワールド



左が都鳥、右が鶏。どちらもハートをワントピントにしたものの。ハート使いの親鳥がいて、それに連なる雛たちが何羽かいたり、何個かの卵とのセットで雛菓子を創るのもひとつ。アイデアかも知れない（卵の色はカラフルにする）。



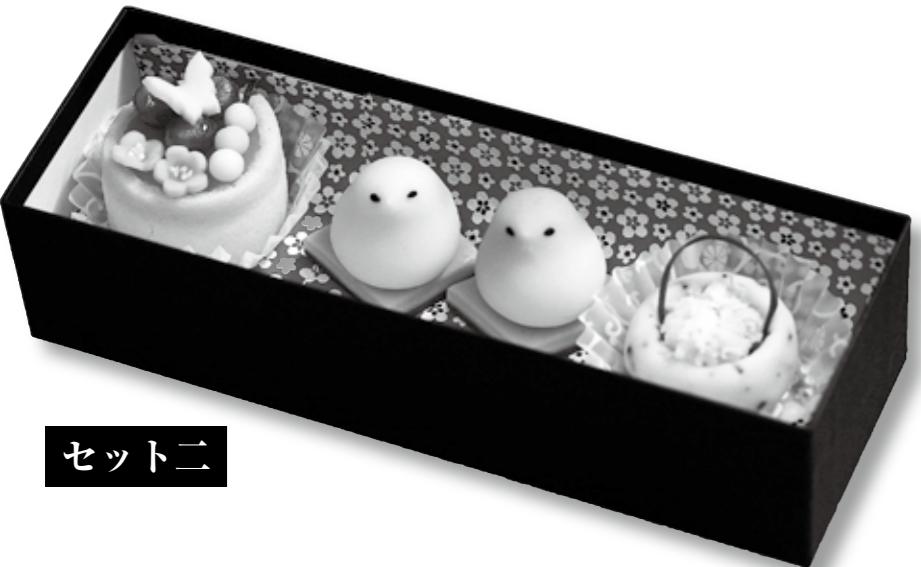
セットものの提案（藤原十星）

手作りの手間隙のかかるものは、能率が悪いがゆえに売り上げにはさほど貢献しないなどの理由から敬遠される。看板商品は別としてお客様は品揃えの変化に敏感である。特に行事で附加值を求めるため、食べて美味しいのは当然のこととして、女性たちは特

に美しいもの、カワイイもの、お洒落なものに目が吸い込まれていく。

ここでは「お洒落でカワイイ」藤原さんの作品と、「おもしろカワイイ」星さんの作品を組み合わせてみた。個性の異なるお菓子の相乗効果によって魅力倍増の桃の節句のギフトになつている。

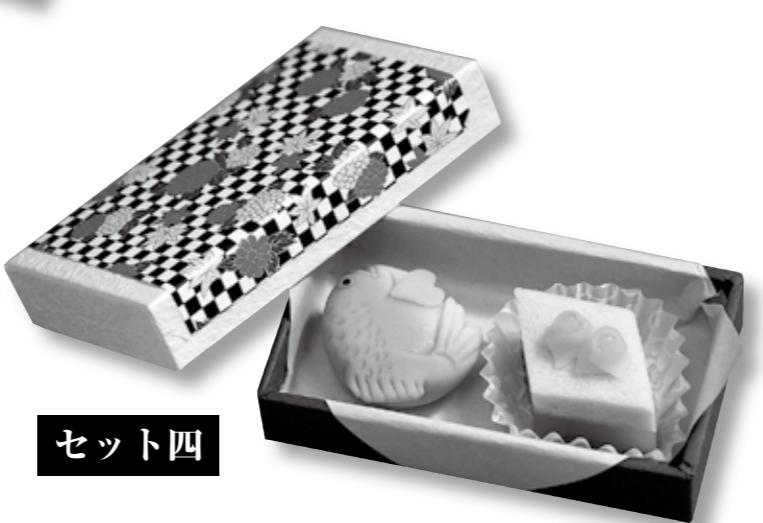
セット一



セット二



セット三



セット四

セット一 中央が藤原さんの「花摘み」、周囲が星氏の「花編」。六角形か正方形の箱にセットすると見栄えがする

セット二 左から「ひいな遊び」(藤原)、「ひなの男雛・女雛」(星)、「花摘み」(藤原)

セット三 左から「乙女心」(藤原)、「菜の花・桃」(星)

セット四 左「はね鯛」(星)、右「雛の舞」(藤原)